

教育委員会

コラム Vol.28

教育長室の窓から

交流って



私ごとで恐縮ですが、これまでいろいろな方々と交流させていただきました。その中に、東日本大震災の復興の際に、被災した町の学校再開に向け、幾度となくお会いし意見を交換した教育長さん（Kさん）がいました。この方は、教員出身ではなく行政出身の方でしたが、子ども一人一人、教職員一人一人をよく見ており、先見性、行動力のある方で、話をするたびに私たち教育の専門家が恥ずかしい思いをしました。その方はよく、キーワードを示しお話をされていた一つが「交流」です。

「これからの時代、井の中の蛙であってはならない。常に、日本といわず、世界に目を向け、交流をはかり時代の流れを読み取っていかなければならない。もちろん交流によって、村民の一人でも多くの方々が、これまで以上に心の広さ、人間としての幅、長期的なものの見方など、自分のものにしてもらうことが肝要だ。」

時代の流れを読み取る、心の広さ、人間としての幅、長期的なものの見方など学校教育や日常生活でも大切にしなければならないキーワードかと思います。

ところで、これまでも何回か触れましたが、学校の教育課程（そろそろ令和9年度の教育課程の編成が始まります。）でも次のようなことを大切にしています。

「社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会づくりを目指すという理念をもち、教育課程を介してその理念の実現を社会と共有していくこと。」「これからの社会を創り出していく子どもたちが、社会や世界に向き合い関わり合っていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化していくこと。」

何か、Kさんの言葉に通じるところがあります。また、Kさんは、「家族」というキーワードについても語っていました。震災からの復興に必要なキーワードであったとあらためて思います。

教育長の

ちょっといい話

敬語の意味を知り、 人間関係を大切に・・・



ある教育雑誌に、次のような内容の中学生の投稿が載っていました。

「最近、学校で上級生に敬語を使わない下級生がいますが、上級生にも敬語が必要だと思います。なぜなら、中学生のころから敬語になれておかなければ、社会にでて急に敬語に切り替えることが難しいと思うからです。それに、敬語を上級生に使えない者が、先生や大人に敬語を使うことができないと思うからです。」

この投稿を読み、この中学生の感性に驚き、私たち大人も考えなければならぬとハッとしました。本町の中学生は、語先後礼がすばらしく挨拶がしっかりしており、私が見る限り先生方への言葉遣いも丁寧です。敬語を含め言葉使いは毎日の習慣ですから、学校だけでなく家庭や社会との連携が必要と中学生の投稿を読み感じた次第です。